

電気通信大学 2025年春期 語学留学報告書

所属・学年： II類2年 N.Y.

留学先大学名： ウーロンゴン大学

留学先国名：オーストラリア

1. 参加の動機

このプログラムについては、大学の国際課のホームページで知りました。

参加を決めた理由は、それまで一度も海外へ行ったことがなく、漠然と「海外に行ってみよう」という興味があったからです。また、実際に現地へ行くことで、その国の文化や人々の価値観に触れ、理解を深めたいと考えていました。さらに、日常生活の中で使われる自然な英語表現、特に教科書ではあまり見かけないような英単語やフレーズを学ぶ機会になるのではないかと期待していました。現地での体験を通じて、自分の語学力だけでなく視野そのものを広げたい、という思いが強くなりました。

2. 授業、アクティビティについて

授業内容・難易度・印象に残っていること

私が受講した授業は、異文化理解やリスニング・スピーキングスキルの向上を目的としたものでした。具体的には、YouTubeなどの動画を使ってオーストラリアの文化について学んだり、冠詞などの文法を扱う授業、ゲームを中心に進められる授業などがあり、担当の先生によって授業スタイルはさまざまでした。事前にクラス分けテストを受け、その結果に基づいてレベル別にクラスが編成されていたため、全体的に難易度は適切だったと思います。ただし、集団授業の特性上、時には簡単すぎると感じることもありました。特に印象に残っているのは、クラスメートの大半が日本人だったことです。時期的に日本人の参加者が多いことは予想していましたが、全クラスを通して日本人以外の学生がごく少数だった点には驚きました。

クラスメートについて

クラスメートは全員大学生で、学年はさまざまでしたが、1・2年生が多かったように思います。出身学部は文系の学生が多く、年齢や専攻を問わずすぐに打ち解けることができました。

アクティビティ

大学主催のアクティビティには時々参加していました。授業後のフリータイムには、主にそこでできた友人たちと一緒に過ごすことが多く、交流の幅を広げる良い機会となりました。また、昼休みにキャンパス内で昼食を食べている現地の学生に声をかけて一緒に食べることもありました。Meet upは一度も使いませんでした。自分から積極的に行動すればわざわざ使う必要もないのではないかと個人的には感じました。

3. 自由時間での活動について

放課後は、大学のアクティビティで知り合った友人たちと出かけることが多くありました。シドニーやウーロンゴンセントラルに足を運び、買い物をしたり、一緒に食事を楽しんだりしました。授業以外の時間でも英語を使う機会があり、友人との交流を通して自然な表現を学ぶことができました。また、週末にはホストファミリーと出かけることが多く、ブルーマウンテンやブッシュウォークなど、オーストラリアならではの自然を体験することができました。現地の人々と一緒に過ごす時間はとても貴重で、文化や習慣について深く学ぶ機会となりました。

4. ホームステイや生活一般について

ホストファミリーとは特にトラブルもなく、良好な関係を築くことができました。日常的に互いの出来事を話し合う機会が多く、自然と打ち解けることができたように思います。ホストファミリーとの会話を通して、日常表現や文化の違いについて多くを学ぶことができました。印象的だったのは、ホストファミリーが家の中では靴を履かず、裸足で生活していたことです。さらには、庭や屋外でも裸足で歩くことが多く、特にブッシュウォークに出かけた際に、ホストファザーが裸足のまま歩いていたことには驚きました。(ブッシュウォークの際、ホストファザー以外は靴を履いてました。)このような習慣は日本とは異なり、オーストラリアならではの文化の一端を感じました。

食事や治安に関しても特に問題はなく、安心して日常生活を送ることができました。物価は高かったですが、ホストファミリーがとても親切だったことによって、生活面での不自由はあまりありませんでした。

5. 今回の留学を通じて得たこと

今回の留学を通して、まず感じたのは自分自身の視野の狭さでした。私は「海外＝危険」という先入観を持っていましたが、実際にオーストラリアに行ってみると、その印象は大きく変わりました。オーストラリアは世界的にも治安の良い国のひとつであり、私自身がトラブルに巻き込まれることはもちろん、周囲の人々の間でも大きな問題が起こることはありませんでした。実際の経験を通じて、自分の思い込みに気づかされ、物事を柔軟に考える大切さを学びました。

語学力については、留学前後でTOEICなどの客観的な試験を受けていないため明確な変化は分かりませんが、CEFRを用いた自己評価では、リスニングとスピーキングのスキルが向上しているという結果が出ました。これにより、以前よりも英語に対する苦手意識が薄れ、自信を持ってコミュニケーションが取れるようになったと感じています。

6. 今後の抱負

今後も今回の留学で得た経験を活かしながら、英語学習を継続し、リスニングやスピーキングを中心に英語スキルのさらなる向上を目指していきたいと考えています。特に、日常会話で使われる自然な表現や、実際のコミュニケーションの中で必要とされる瞬発力を身につけることを目標としています。また、今後も海外の文化や価値観に触れる機会を積極的に持ち、語学力だけでなく、国際的な視野を広げていきたいと思っています。

7. 参加希望者へのアドバイス

留学に関心があるけれど、金銭的な面や不安があるという方へ。もし迷っているのであれば、私はぜひ参加することをお勧めします。私自身、留学に行くかどうか悩んでいた時期がありましたが、実際に留学してみると、その経験は非常に充実していて、今でもあの時間が夢だったのではないかと思うほどです。

語学力に不安がある方も多いかもしれませんが、私も留学前は「自分の語学力で現地で生活できるだろうか？」と心配でした。しかし、現地で積極的に英語を使うことで、自然と英語で会話する抵抗感が減り、自信がついてきます。また、日常生活で英語がうまく理解できなかったり、言いたいことをうまく表現できないこともありますが、それを恐れる必要はありません。私もそうした経験をたくさんしましたが、それが英語学習へのモチベーションになり、帰国する頃には確実に自分が成長しているのを感じました。留学期間が短いと、観光メインになってしまうこともあります。それでもぜひ参加してみてください。もし可能であれば、少しでも長い期間の方が、より多くのことを学べると思います。

また、留学を決める際、インターネットで情報を収集することが多いと思いますが、注意が必

要です。インターネット上には真偽が確かでない情報や、意図的にネガティブな情報ばかりを載せているサイトも多く見受けられます。そのため、ネットや書籍で得られる情報はあくまで参考程度にして、最終的な判断は自分自身の目で見て感じたことを大切にしてください。迷っているなら、ぜひ一歩踏み出してみてください。留学は人生において本当に貴重な経験になるはずです。

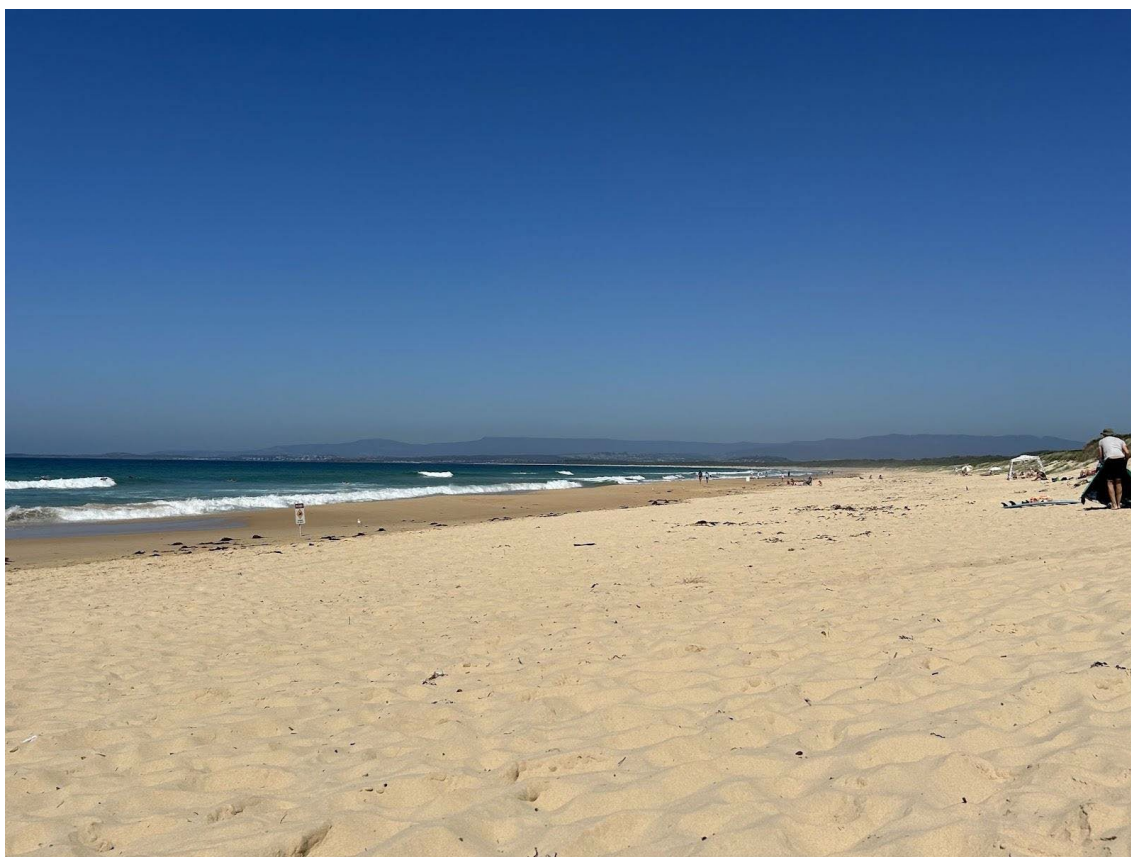
8 その他(任意)

留学中、さまざまな面で文化の違いを感じる機会がありました。その中で特に印象に残っているのは、「ルール」に対する考え方の違いです。日本では、多くの人がルールに忠実であることが良いとされており、私自身もそれは素晴らしい点だと思っています。しかし、オーストラリアでの生活を通して、必ずしも「ルールに従うこと＝正しいこと」ではないのかもしれないと考えるようになりました。例えば、現地でバスを利用していた際、年配の方がバスに乗るのを見かけた運転手が、その方が歩く距離を少しでも短くするために、正式なバス停の少し手前でバスを止めていたことがありました。また、バスの出発時刻を過ぎていたにもかかわらず、走ってバスに向かっていく人がいれば、それを見てバスを発車せずに待ってくれる場面もよくありました。確かに、こうした柔軟な対応が交通機関の遅れにつながる面もあるかもしれません。しかし私は、その「人を思いやる気持ちを優先する」という考え方に、とても温かみを感じました。そして、厳密にルールを守ることが必ずしも最善とは限らず、時にはその場の状況に応じた柔軟さも大切なのだということを学びました。

このように、留学を通して他国の文化や価値観に触れることで、自分自身がこれまで当たり前だと思っていた考え方を見つめ直す機会にもなりました。海外の生活や人々の行動から学ぶことは本当に多く、留学の大きな魅力の一つだと思います。

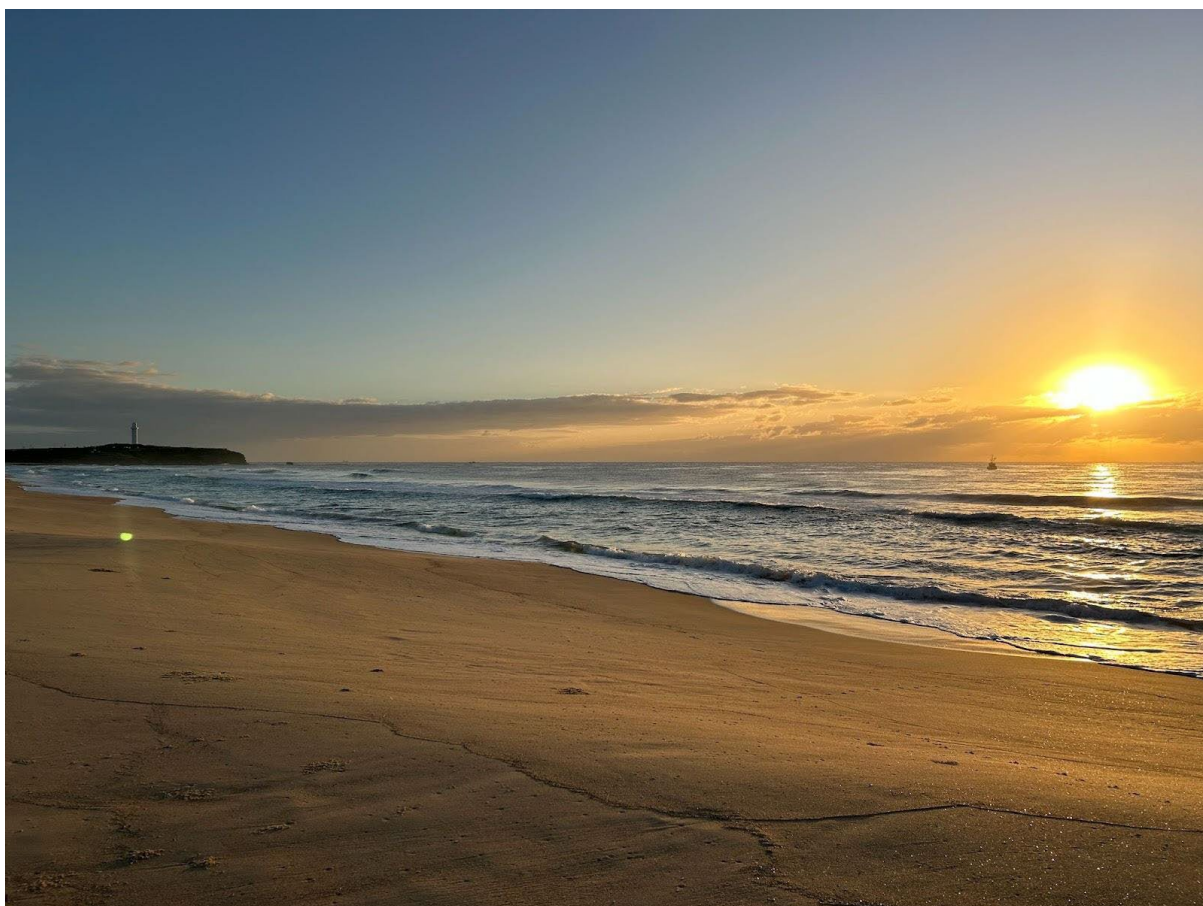
プログラムの改善点として、せっかく同じ授業料を払っているため、授業の内容はおおまか同じにしてほしいと感じました。というのも、授業の一つにアボリジニの文化について学ぶ機会がありました。そこで、他の多くのクラスはアボリジナルアートを実際に作る授業があったのですが、私のクラスは担当の先生の授業進度が遅かったために時間が足りずできませんでした。

また、プログラムのパンフレットには様々な国からきた学生とともに英語の授業を受けるとの記載がありましたが、蓋を開けてみると日本人ばかりという点にも不満がありました。時期的な問題もありますが、まさかほぼすべての語学留学にきた学生が日本人であるとは思わなかったです。



Port Kembla Beach

家から近く、ホストファミリーに車で連れて行ってもらった。



sunrise

朝早起きして、授業が始まる前に友人と見に行った。



Blue mountains

ホストファミリーに休日、車で連れて行ってもらった。



pancake at bills

シドニーの有名なカフェ bills で食べたパンケーキ



dinner (ホームステイ先での夕食は様々な種類のカレーが出てくるが多かった。)